

# 学習指導改善の取組

胎内市立築地小学校

## 1 当校の学力実態と基本方針

当校の児童は、基礎学力向上の取組により、単元テストやWeb診断問題等において到達目標を達成できるようになってきた。また、学習環境の整備や授業改善の取組により、各学年段階で身に付けるべき、「話す・聞く」、「読む」、「書く」などの基礎的スキルも、身に付きつつある。昨年度は、学級間で達成度の差や学年が上がるにつれて個人差が大きくなる傾向が見られた。こうしたことから、基礎的・基本的な学習内容の定着については、引き続き全校体制で取組を強化しているところである。

これまで「伝え合う力」の育成を目指して授業改善に取り組んできた。以前は、平均点を上回ることが難しかった全国学力・学習状況調査や学習指導改善調査でも少しずつ成果が表れるようになってきた。しかし、筋道を立てて考えたり根拠を明らかにして説明したりする力や、相手の考えと比べたり話し合いを通して自分の考えを深めたりする力については、まだ十分とは言えない段階である。今後も、基礎・基本の定着とともに思考力・判断力・表現力の育成にも力を入れていく必要がある。

こうした状況から、当校では、一人一人が自分の考えを分かりやすく説明したり、話し合いをとおして互いの考えを交流したりといった「言語活動の充実」を軸とした授業改善に取り組むことにした。また、前年度から取り組んでいる「活用力テスト」についても、読解力や記述力、論述力を鍛えるべく取組を継続することとした。

## 2 前年度の学習指導改善調査から見えてきた課題

	各教科の課題
国語	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 課題の主旨、問われている内容が正しく読み取れず、題意をつかんでいない。</li><li>・ 課題の説明の理解が不十分である。</li><li>・ 段落の役割や働きを考えて、目的に合った段落構成ができない。 (指定された段落数で書けない。「まとめ」としての段落がきちんとかけない。など)</li><li>・ 伝えたいことの本心が押さえられていない。</li></ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 課題の主旨、問われている内容が正しく読み取れず、題意をつかんでいない。</li><li>・ 課題の説明についての理解が不十分で誤った答え方をしている。</li><li>・ 順序立てて言葉で説明することができない。</li><li>・ 算数の用語の意味を理解し、用語を使って説明することが難しい。</li><li>・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分なため、最後まで正しく答えを導き出すことができない。</li></ul>

## 3 研究主題と「育てたい子どもの姿」

<研究主題>

思いや考えを確かにし、分かりやすく伝え合う子の育成  
—「言語活動の充実」を図る学習指導を通して—

<育てたい子どもの姿>

多様な言語活動をとおして、一人一人が、自らの考えを確かにし、友達と考えを比べたり、つなげたりしながら考えを深め、課題を解決する子

- 多様な言語活動を取り入れながら、一人一人が思考力・判断力・表現力を働かせる。
- 既習事項や課題解決の手がかりをもとに自力解決し、理由や根拠をはっきりさせて自分の考えをまとめる。
- 互いの考えを交流し、自分の考えと友達の考えを比べたり、関係付けて考えたりすることにより、よりよい考え方や解決の方法に気づく。
- 授業の終末において、子どもが「分かった」「できた」と納得し、導入段階よりも考えが深まったことを実感する。

#### 4 学習指導改善の取組

##### (1) 築地小学校授業モデルの作成と重点単元の設定

- 次のような、授業モデルを基本としながら、本時の展開を構想、実践する。

＜授業モデル＞

導入	5～ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に迫る教材提示</li> <li>課題把握と学習の見通し</li> </ul>
展開	25～ 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えの明確化（個の学び）</li> <li>考えの交流（全体の学び）</li> <li>学びの深まりと課題解決</li> </ul>
終末	5～ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの振り返り</li> </ul>

- 各学期に1回、言語活動の充実を図る重点単元を設定する。
- 単元の指導目標に照らして、「育てたい子どもの姿」について具体的な評価規準を設定し、授業実践後、評価を行い、学習指導改善へつなげる。

##### (2) 「授業改善シート」による評価と改善

- 今年度から中学校区共通のものを実施する。
- 重点単元として設定した、教科・単元において、「育てたい子どもの姿」具現化を意図した授業（本時）について評価する。
- 評価結果を蓄積、分析し、次学期の授業改善につなげていく。

授業改善シート

授業日	□□年□□月□□日(□□) □□校時	教科・単元名	
本時の ねらい			
<input type="checkbox"/> 十分達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 不十分			
	授業改善のポイント	評価	コメント欄
授業 展開	① 教師は一人一人の児童生徒を十分理解し、表情豊かに授業をしている。		
	④ 構造的で分かりやすい板書がされており、1単位時間の学習の足跡が把握できる。		
進 展	④ 児童生徒の学習意欲を喚起する教材教具が準備されている。		
	③ 課題を解決する手がかりとなる既習事項や解決の糸口を示し、児童生徒に学習の見通しをもたせている。		
展 開	① 教材とかわりながら、自ら考えたり、取り組んだりする主体的な活動場面がある。		
	⑤ 教師と児童生徒の1対1のやりとりだけでなく、児童生徒間同士の意見交流が行われている。		
終 末	① 分かるまでの過程を確認したり、連綿に評価したりしている。		

##### (3) 「言語活動の充実」を目指した授業実践

- 指導案には、①学習過程における言語活動の位置付け、②言語活動の充実の手立て③言語活動において求める子どもの姿以下の3点から、期待する子どもの姿と「言語活動の充実」との関連を明記する。
- 授業後、目指す子どもの姿に対して「言語活動の充実の工夫」が有効であったか研究協議を行う。
- 言語活動に関わる評価規準に照らして、目指す子どもの姿の達成状況を確認する。

##### (4) 「活用カテスト」の実施

- 各学期に1回、全校テストの1つとして実施。
- 説明や論述、要約など記述式の問題を実施し、思考力・判断力・表現力を育成するとともに、知識・技能を活用する力を確かめ、学習指導の改善に役立てる。

- ・ 3年生以上の学年で、国語、算数について実施。テスト実施後、解答、補充学習を行い、弱点補強や授業改善に努める。
- ・ 問題の形式は、「記述式」を中心とし、国語は、相手や目的、意図に応じて、自分の意見や理由、紹介、報告などを一定以上の文字数で記述する問題、算数は言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、解決の方法や理由などを筋道立てて説明する問題を基本とする。
  - ※ 問題の内容は、当該学年の指導目標、内容や授業との整合を図る。
  - ※ 問題の作成に当たっては、学習指導改善調査、全国学力・学習状況調査、Web 配信システム（発展・補充問題）や研修用図書として購入したワークシート集、「すこらe」（県小教研）や「全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所）等を参考にする。
  - ※ 問題と併せて採点基準も作成し、結果を数値化、客観的に評価できるようにする。

## 5 今年度の学習指導改善調査の結果分析

- ・ 7月に4年生以上が同じ日に実施。
- ・ 当該学年だけでなく全職員で採点する。その後、結果を入力し、分析を行う。
- ・ 結果をもとに各学年で指導改善策を協議し、2学期以降取り組む。
- ・ 次年度以降の学力向上策、研究主題策定の際の資料とする。

## 6 考察

- ・ 前年度の結果を踏まえ、学習指導改善の取組を進めた結果、数値的には、前年度よりも向上が見られた。理由としては、基礎学力の向上や問題の読み誤りが少なくなったこと、指定された条件の中で記述できる児童が増えたこと、無答の児童が減ったことなどが挙げられる。しかし、前年度見られた課題が解決されたわけではない。児童の実態を的確に把握し、引き続き、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導改善策を継続していく必要がある。
- ・ 国語、算数において重点単元を設定し、言語活動の充実を目指した授業実践を行った。育てたい子どもの姿を各教科、単元の目標、内容に照らして評価した結果、十分達成している(◎)は、46.4%、概ね達成している(○)は、46.8%、不十分である(△)は、6.8%であった。○評価に留まっている児童が多く、言語活動の充実を目指した取組を一層進めていく必要がある。
- ・ 今年度から築地小授業モデルを作成した。子どもたちが自分の考えをもち、伝え合う場を設けることにより、目指す子どもの姿を具体化すべく授業実践に取り組んでいる。また、学習意欲の向上や学習習慣の定着、効果的な指導、達成状況の把握等についても成果が見られた。
- ・ 重点単元における授業実践では、「授業改善シート」による評価を行い、授業モデルの具体化が図られているか、効果的な指導が行われているか点検し、改善へとつなげた。1学期の結果では、十分達成している(A)が23.1%、概ね達成している(B)が71.1%、不十分である(C)が5.8%であった。項目ごとにみると、授業の導入部における学習課題の提示や学習の見通しについては、比較的评价が高いことが分かる。一方、授業の展開部において、根拠を明らかにして発表したり、子どもたち同士が考えを伝え合ったりする姿について、評価が低い傾向が見られた。